



Fig. 2. Habitat of *Buprestis (Ancylocheira) esakii* Y. Kurosawa, 1954: A, pine tree that found this species; B, exit hole.

1D) に黄色紋を示す (大桃・福富, 2013).

再発見時の状況として, 15 時ごろ風通しの良い小高い丘に生えたリュウキュウマツ (Fig. 2A) に飛来した個体を発見した. 採集した個体以外にも本種と思われる飛翔個体を複数確認したが, 追加は得られなかった. 飛来した樹木の衰弱部には, 本種とみられる脱出口 (Fig. 2B) が確認されたため, 沖縄島でも発生している可能性は高いといえる.

筆者らは, 翌日から慶良間諸島の阿嘉島にわたり, 慶留間島と外地島で 1 日半ほどエサキクロタマシの採集を行った. 沖縄島で採集した場所と似た環境を選び採集した結果, 慶留間島で 22 個体 (13♂, 9♀), 外地島で 16 個体 (6♂, 10♀) を得た. これらの成果は, 本種が小高い丘や尾根筋など風通しの良い環境に生えたリュウキュウマツに集まることを示唆する. しかし, 生態に関して発生時期や活動時間帯など, まだまだ未解明な部分は多い.

<標本データ> 13♂, 9♀. 24–25. VI. 2017, 沖縄県島尻郡座間味村慶留間慶留間島 (標高 約 120 m), 6♂10♀. 24–25. VI. 2017, 沖縄県島尻郡座間味村慶留間外地島 (標高 約 60 m), 里見太輔・黒田剛広採集・保管.

沖縄島には, エサキクロタマシと同属で近縁なクロタマシの琉球亜種 *Buprestis (Ancylocheira) haemorrhoidalis arakii* Y. Kurosawa, 1942 も分布している. しかし, これまで両種が同所的に発見された例はなく, この 2 種間の関係については明らか

にされていない. したがって, 両種の詳細な分布や生態について, さらなる調査が必要であると考えられる.

謝辞

報告にあたり, 本種に関する文献情報や原稿を校閲して下さった福富宏和氏 (石川県ふれあい昆虫館), 採集に同行して下さった黒田剛広氏 (神戸大学大学院進化生態学研究室) に厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 秋山黄洋, 1978. 台湾の *Buprestis* 属 2 種について. 甲虫ニュース, (43): 7.
- 稲田悟司・山田 航・福富宏和, 2015. 慶良間諸島のタマシ. 月刊むし, (537): 4-9.
- 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本タマシ図鑑. 120 pp. むし社, 東京.
- 楠井善久, 2015. 沖縄県慶良間諸島におけるタマシ 2 種の記録. さやばねニューシリーズ, (17): 6-7.
- Kurosawa, Y., 1954. Buprestid-fauna of Eastern Asia, (Coleoptera) (I). The Bulletin of the National Science Museum (Tokyo), 1(1): 29-39.
- 黒沢良彦, 1970. 日本産タマシ科解説 (7). 甲虫ニュース, (9): 1-5.
- 黒沢良彦, 1980. エサキクロタマシは沖縄に産するか. 甲虫ニュース, (51): 6.
- 小林信之, 1983. 久米島におけるエサキクロタマシの採集例. 月刊むし, (154): 3.

(2018年5月23日受領, 2018年6月14日受理)

エサキクロタマムシの沖縄島における再発見 および慶良間諸島における追加記録

里見太輔

〒 657-8501 神戸市灘区鶴甲 3-11 神戸大学大学院 進化生態学研究室
(sdaisuke@me.com)

Rediscovery of *Buprestis (Ancylocheira) esakii* Y. Kurosawa, 1954 from Okinawa-jima Island and Additional Records from Kerama Islands, Japan

Daisuke SATOMI

エサキクロタマムシ *Buprestis (Ancylocheira) esakii* Y. Kurosawa, 1954 は、黒澤良彦氏によって台湾産の個体を基に、ヒマラヤやインド東部から知られていた *B. aurantiopicta* Castelnau et Gory, 1837 の亜種として記載され (Kurosawa, 1954), その後、秋山黄洋氏によって独立種に昇格されたタマムシである (秋山, 1978). 日本における初記録は、大島康平氏によって 1979 年 7 月 8 日に沖縄島南部の知念村知念で、リュウキュウマツの樹皮下から発見された死骸 1 頭である (黒沢, 1980). その後、久米島 (小林, 1983) や慶良間諸島 (楠井, 2015; 稲田ら, 2015) からも記録されているが、沖縄島では、初記録以来多くの研究者が昆虫を調査しているにもかかわらず、現在にいたるまで再発見さ

れていない. 本種の沖縄島からの再発見は、離島と沖縄島の成り立ちや環境を比較・検討する上で重要な意味を持つと考えられる.

筆者は、沖縄島中南部に位置する浦添市において、2017 年 6 月 22 日に、本種 1♂ 個体を採集した. 本種の沖縄島での再発見は、1979 年の初記録以来 38 年ぶりであり、生きた個体が採集されたのは初めてのことである.

<標本データ> 1♂, 22. VI. 2017, 沖縄県浦添市伊祖 (標高約 60 m), 筆者採集・琉球大学博物館 (風樹館) 収蔵 (資料番号 RUMF-ZI-29873).

本種は、上翅 (Fig. 1A) に黄色紋があり、体下面 (Fig. 1B) は黒色で暗銅色を帯びる. 雄の前脛節端内側 (Fig. 1C) には鈎状突起があり、顔面 (Fig.

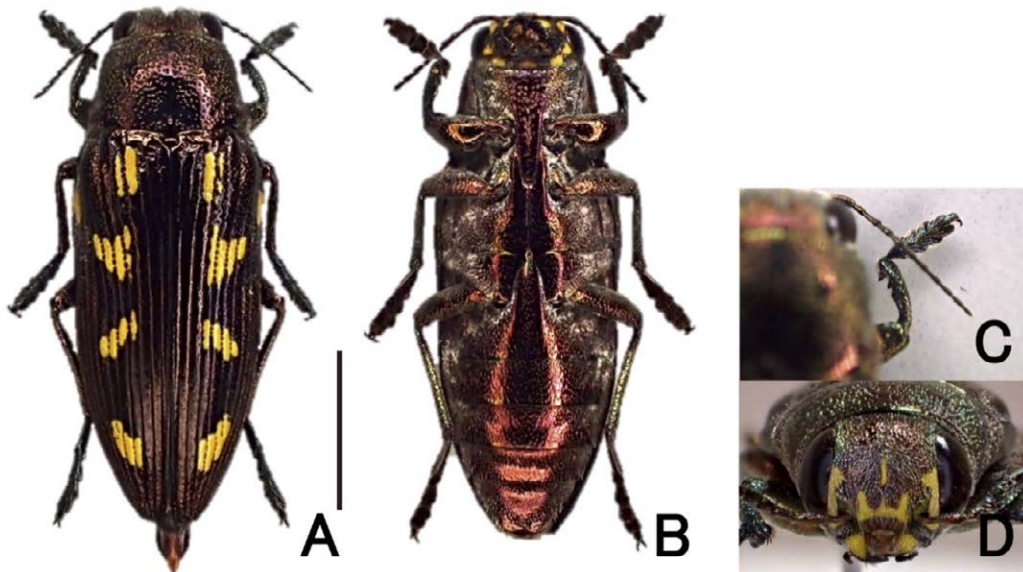


Fig. 1. Male of *Buprestis (Ancylocheira) esakii* Y. Kurosawa, 1954: A, dorsal habitus; B, ventral habitus; C, right fore leg tibia; D, face. Scale: 5 mm for Fig. A & B.